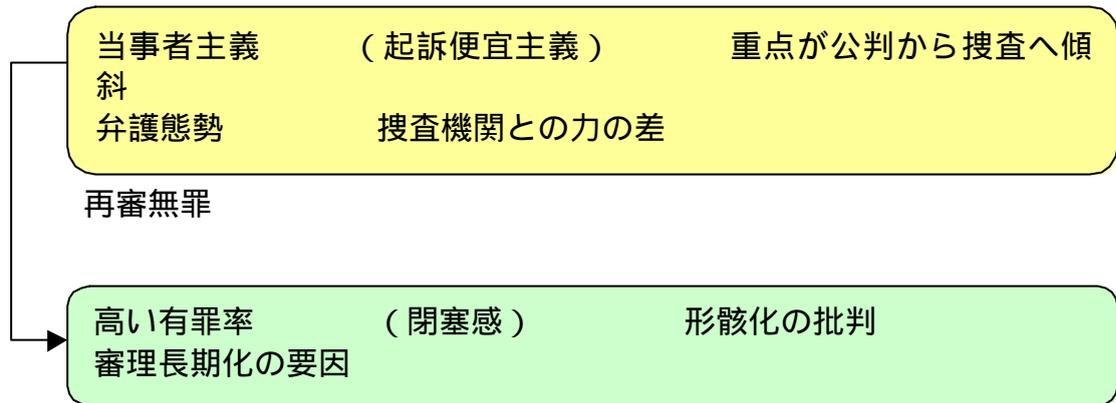


国民の期待に応える刑事司法の在り方

第1 刑事司法に対する国民の期待

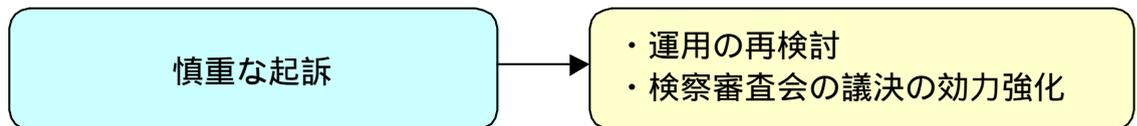
- ・ 実体的真実解明
- ・ 公正な手続
- ・ 適正・迅速な裁判の実現

第2 刑事司法の現状と課題

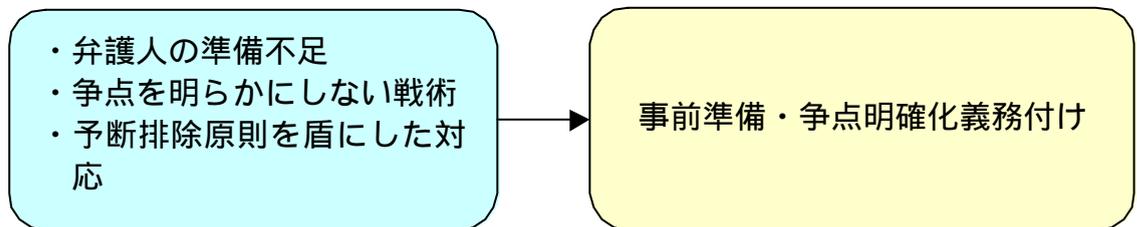


第3 刑事裁判の充実・迅速化のための改善策

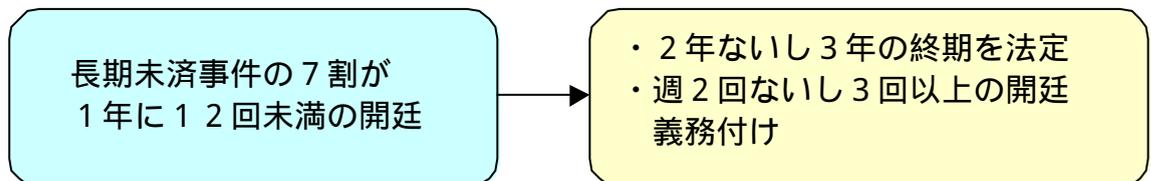
1 起訴の在り方の見直し



2 事前準備と争点整理の義務化



3 期日の確保と審理期間ないし開廷ペースの設定



4 弁護態勢の強化

(1) 公設弁護人ないし類似制度の創設

・集中的な期日が受けられる
態勢作りの必要性
・弁護態勢の充実強化の必要性

・公設弁護人ないし類似制度
の創設
・弁護士事務所の法人化・弁
護活動の協同化

(2) 被疑者弁護制度

・捜査に重点傾斜の実情
・当番弁護士制度の普及

公的費用による被疑者段階の
弁護制度創設

(3) 捜査の在り方の見直しと公判への反映

捜査時の供述の任意性・信用性
の判断の困難さ

リアルタイムの取調経過表作
成など供述の状況把握可能な
方策

(4) 証拠開示

事前準備，争点整理の実効性

第1回公判前の証拠開示義務付け

濫用防止

ペナルティの制度的保障

開示をめぐる紛議の予防

公判裁判所が主宰

5 裁判所の態勢の強化

誤判に学ぶ必要

・捜査の透明化
・裁判官の研究，研修充実

訴訟指揮権の強化

逸脱訴訟活動等に対する
有効・適切な規制

態勢の強化

人的・物的態勢

6 国民の司法参加

将来の刑事裁判の在り方

法律専門家以外の視点を導入